

今を未来に

保々小学校のみなさんへ 「みんなができたと言えること」みつかりましたか。

2学期も残すところ、あと15日です。2学期の途中の集会で校長先生が話したことを覚えていますか。校長先生はこんな話をしました。「学ぶことが楽しい学校にしていけるために、2学期の最後の式で、みんなができるようになったねと言えることをみつけていきましょう。」と。もうみつかっていますか。

その集会の時には、けがの多さ、遠足の帰りにお菓子を食べて帰る子がたくさんいたことなども話をしましたね。けがについては、10月より少し減って145件(−21件)で、病院の受診が望ましいと思ったけがは33件で10月とほぼ同じでした。一部の学年でけがをする子が多くなっているの、そのことは担任の先生からお話をしてもらいます。

全校のみんなができるといいねと言われている生活の目標は次の3つです。昇降口にも掲示されている3つです。できている人は□を赤で塗りましょう。

□名札をつける。 □ろうかは右側を歩く。 □授業を大切にする。(授業時間の確保)
さらに、次のことも「できるといいね。」と言われていることです。

□けがをしないように、落ち着いて行動する。友だちにけがをさせない。

□自分からあいさつができる。(おはよう、こんにちは、さようなら、ありがとうなど)

□席に着いたら勉強道具を出すことは当たり前。先生が来るまでに勉強を始めよう。

3つ目のことは、1年生の子ができるようになってきています。中学年・高学年も負けてはいられないよ。

残り15日間、ここでできなければ3学期も不安です。終業式で聞きます。「できた人は手を挙げて。」と校長先生に言われた時、何回手が挙げられるかな。

2年A組で全体研修会(職員)がありました。(11月28日)

今回は2年A組の子どもたちの授業を参観して「学び合いの授業づくり」を進める研修会を行いました。今回も二人の指導主事に研修会に参加いただき、いろいろな助言をいただきました。

この日の生活科は「牛とわたしたちの生活」という単元で、地区探検で訪れた門脇牧場と、そこで育てた牛が肉になる四日市市食肉市場を取り上げ、そこで働く獣医さんや山下さんの話を聞いて、牛が食肉になるまでに焦点をあてた学習でした。本時は土曜授業の日に聞いた山下さんのお話から、もう一度山下さんの仕事とどんな気持ちで仕事をされているかを思い起こし、山下さんの仕事の大切さを考えることをねらいとしていました。

ここで感心したことは、子どもたちが山下さんの話をしっかりと聞き取っていたという



ことでした。聞き取ったメモをみて思い起こすのではなく、自分の心に残ったことを通して、子どもたちがどんどん話をしてくれました。門脇牧場で門脇さんから牛を育てている人の「おいしいと言われるお肉を育てたい」という思いから、いろいろな工夫をされていることに気づいていた子どもたちだからこそ、山下さんの話をそのこととつなげ、心で受け取って聞けたのだと思います。その子どもたちの思いを引き出すために、授業者の佐藤先生が手作りの絵を準備されたことやこの単元を進めるために実際にお肉をさばいている食肉センターの見学にも行って、そこで働く人たちの姿を見て、子どもたちに働く人の気持ちを伝えたいと本気で思ったことが、この授業につながったのだと思いました。

また、私たち授業者に共通する課題として、子どものつづやきをどう拾って課題解決に結び付けていくか、授業を通して子ども自身がどうか変わったかを問う発問はどんな発問がよかったのかが、話し合われました。

「学び合いの授業」を進めるには、どんな課題で勝負するのか、友だちの考えを子ども自身が学び・深めていくことが大切であると再確認できた研修会でした。



第2回学校づくり協力者会議開かれる。(11月22日土曜日 報告)

土曜授業の講演会の前の時間に、第2回学校づくり協力者会議が開かれました。議事の内容は、①全国学力・学習状況調査の結果について、②来年度に向けて、③子どもたちの様子について、でした。以下はそこでいただいた主な意見や話し合われた内容です。→に続く文は、委員の方の意見や学校の考えです。

- ・学力向上のためにも、子どもたちが落ち着いて学習できる、学級づくりが大切ではないか。そのために、本音で話ができる子を育てていくことが大切である。
- 落ち着いて学習ができていない学級では、支援を手厚くして子どもたちの学習に取り組んでいます。(学校より)
- ・学力向上に向けた取り組みの結果がなかなか出ない。無回答率が高いことが課題というなら、やり切る力をつけることを第一に考えなければならない。
- 全国平均を超える学校は、無回答の子も少ない。その事例からも「あきらめずにやり切る力」を、小学校の時からつけていって欲しい。(委員より)
- ・学力向上や学級が落ち着いて学べるようになるために、親として何ができるだろうか。
- 10歳を越える頃から子どもたちは論理的に思考しようとする。家庭での会話も「しなさい。」ではなく、納得するまで話をするようにしてほしい。(委員より)
- 学習がわからなくなることも子どもの荒れにつながる。家庭学習の取り組みに協力を頂いているのも、繰り返しによる学習に取り組むことで、学習の基礎を身につけてほしいと願っているからである。また、高学年が自主学習に取り組むのは、自ら学ぶ力が「やり切る力」につながると考えているからである。(学校より)
- ・次年度の土曜授業の予定、通学路の変更計画、運動会が秋になることなど、学校だよりNo.14などを使って説明した。
- 通学路の変更については、土地改良区でもあることから地域の方の理解も必要である。

(委員より)